

再評価【番号6】

広域漁港整備事業
椿泊漁港

漁港の高機能化で実現！ 本県水産業の持続的な成長

○背景

- ・ 県内各地で水揚げした水産物は県内消費の他、徳島中央卸売市場経由、直接産地から関西圏や東京方面へ直接輸送されている。
- ・ 祇園祭でのハモや、黒門市場での黒アワビは特に人気。
- ・ 一方、高齢化、漁業者人口の減少の影響もあり漁獲量は10年前と比べ、約3 / 4 に減少

徳島県の漁獲量推移

	漁獲量 (t)	比率
H22	12,454	-
R2	9,368	75.2%



3位
74,253kg
(京都)

4位
52,519kg
(京都)

【出典】海面漁業生産統計調査

○目的

水産物の安定供給や、本県水産業の持続的な成長を目指す

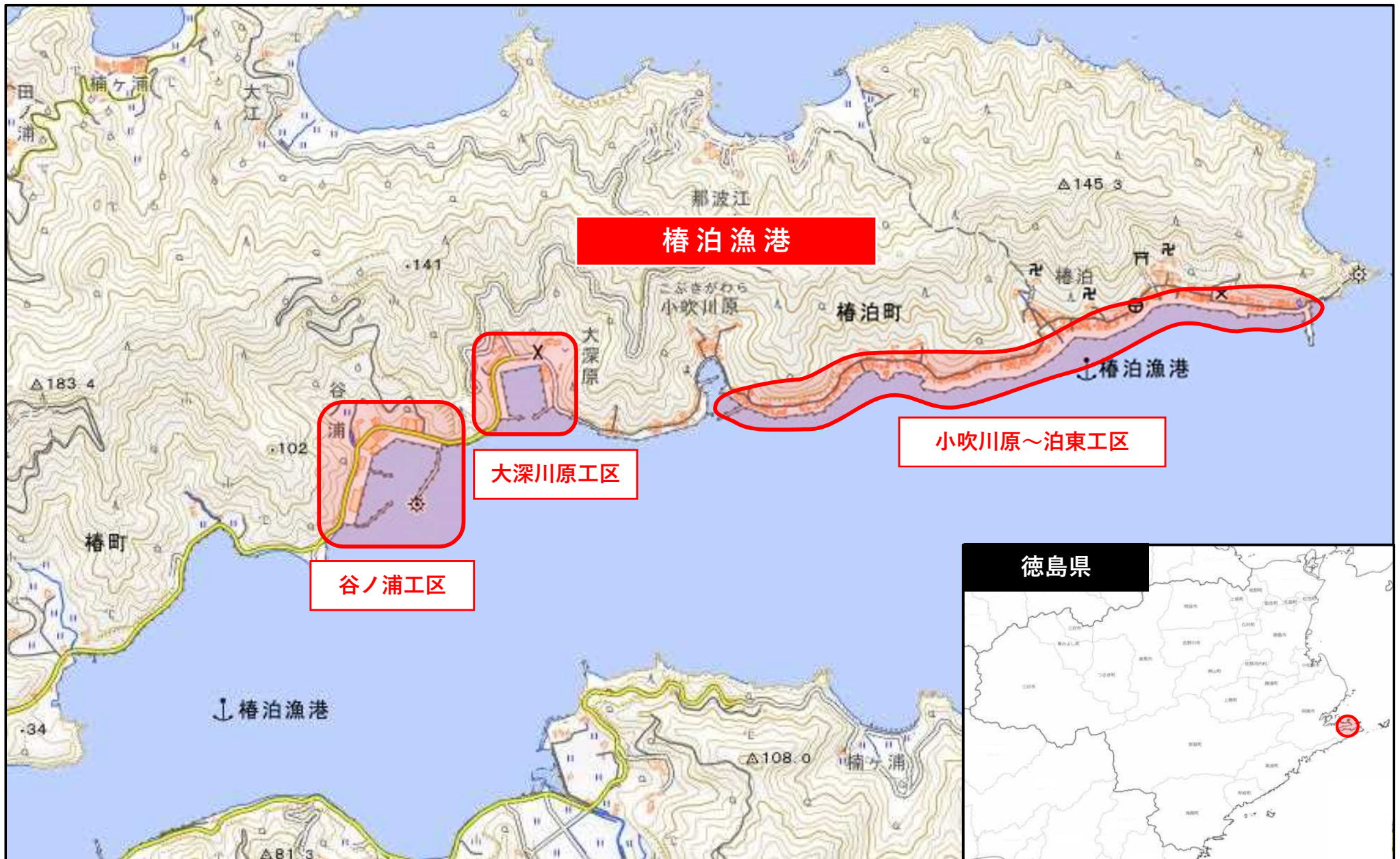
○事業効果とおもな整備事例

- ・ 水産物の生産性の向上
→ 魚価向上のための高度衛生化流通機能整備
- ・ 漁業就業環境向上
→ 労働環境改善のための防風フェンス、浮棧橋整備
- ・ 非常時・緊急時の対処
→ 生命財産保全のための施設耐震化、耐津波化



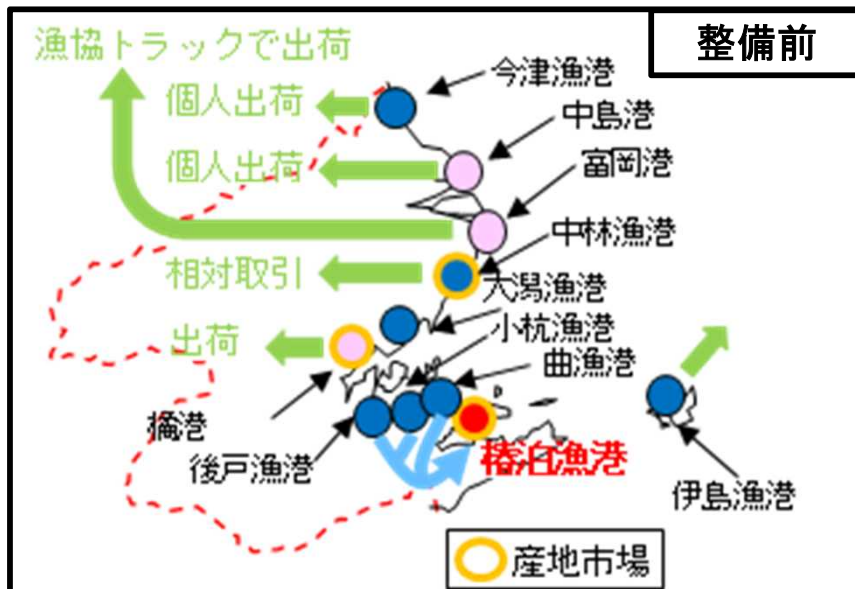
今こそ
高機能な
漁港整備が必要！

1. 事業箇所

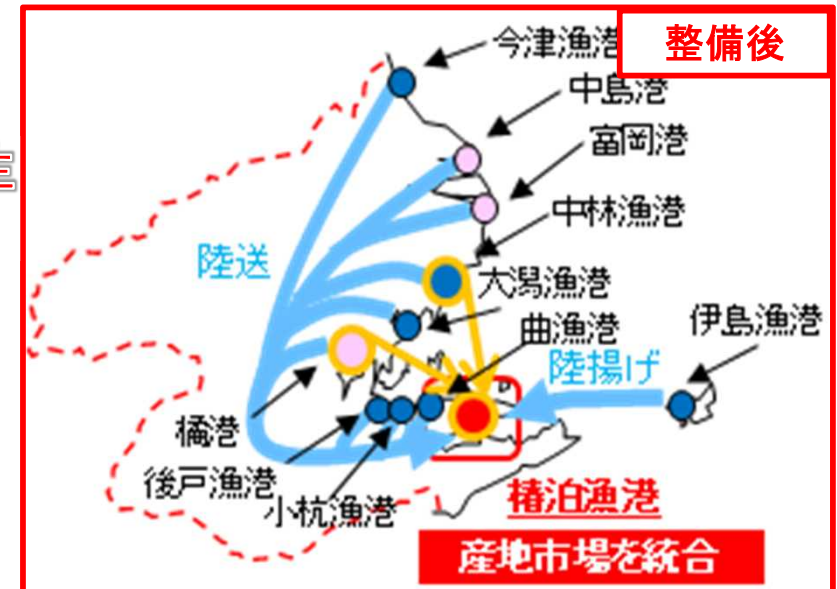


2. 事業計画(集出荷機能の強化)

- 阿南市には7つの漁協が立地しており、それぞれが個人出荷や相対取引など独自のルートで出荷しており、将来の市場機能効率化を見据えると市場機能集約が不可欠。
- 開放型荷さばき所であるため、鳥類等の侵入対策に課題。
- 野天での陸揚げ作業による品質低下の懸念。



浜の活力再生
広域プラン



既設荷さばき所へのトラック進入



荷さばき所内への鳥類の侵入



雨天時の陸揚げ作業



市場機能の集約、高度衛生化により魚価の向上を図る

3. 事業計画(就業環境の向上、防災対策強化)

- 潮位差が大きく、干潮時には陸揚げ・準備作業の肉体的負担が大きい状況。
- 耐震性能を強化した外郭・係留施設が未整備。
- 港内静穏も確保できておらず、暴風時の安全な漁船係留が困難。
- 小吹川原～泊東工区は、住宅地を通る狭い道路しかないため、漁業者の出漁や準備のための移動が時間を要し、危険。

【谷ノ浦工区】干潮時の陸揚げ状況



荒天時の状況

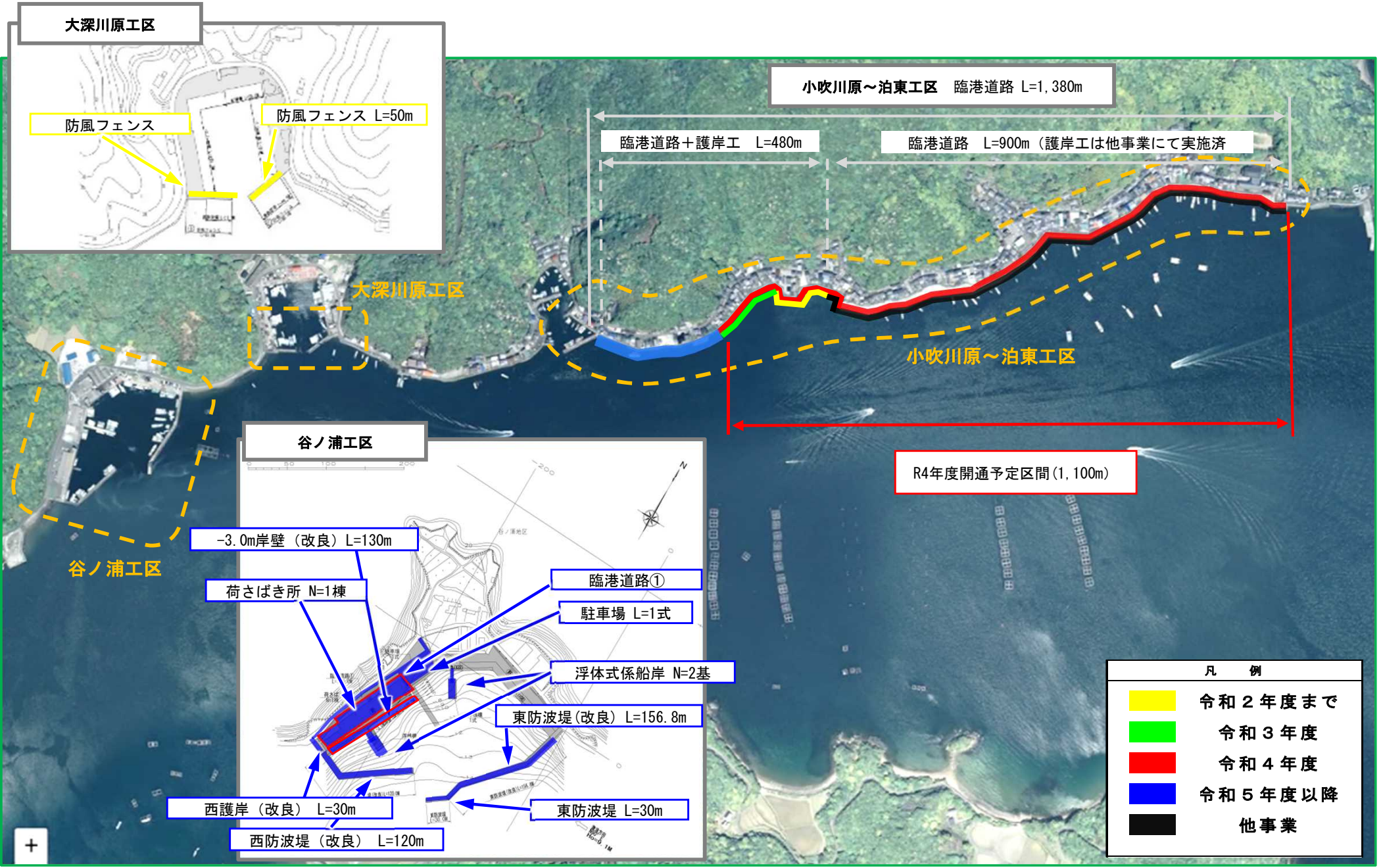


【小吹川原～泊東工区】
住宅街の狭隘道路



耐震性能を有した外郭・係留施設の整備、臨港道路の整備

4. 整備計画(全体)

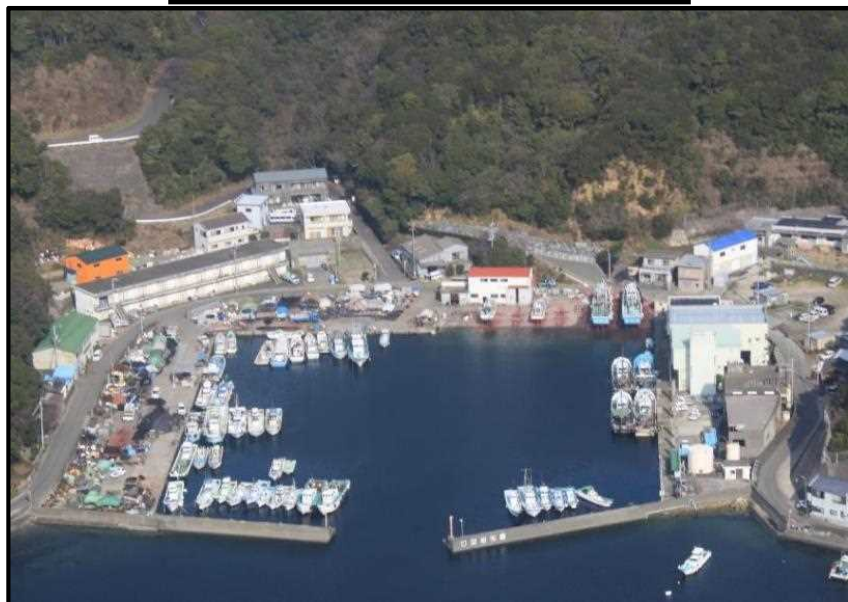


5-1. 谷ノ浦工区 (整備状況)



5-2. 大深川原工区 (整備状況)

整備前



整備後 (防風フェンス)



暴風被害状況



防風フェンス

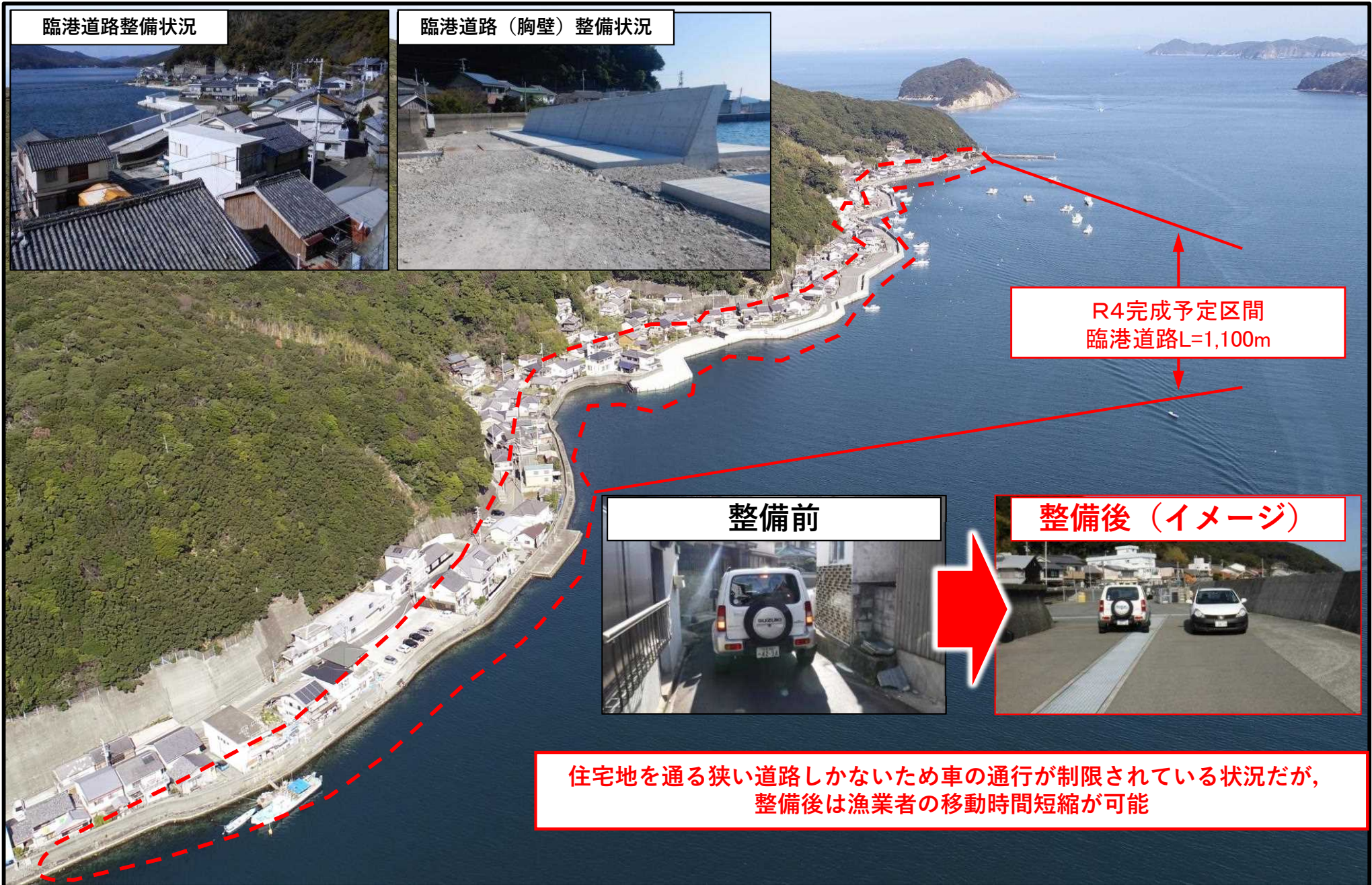


5-3. 小吹川原～泊東工区 (整備状況)

臨港道路整備状況



臨港道路 (胸壁) 整備状況



R4完成予定区間
臨港道路L=1,100m

整備前



整備後 (イメージ)



住宅地を通る狭い道路しかないため車の通行が制限されている状況だが、
整備後は漁業者の移動時間短縮が可能

6. 費用対効果

総 便 益

- 1 水産物生産コストの削減効果
- 2 漁獲物付加価値比の効果
- 3 漁業就労者の労働環境改善効果
- 4 生命・財産保全・防護効果
- 5 避難・救助災害対策効果

115億1,197万9千円

総 費 用

事業効果発現に必要な費用

43億1,413万1千円

$$\text{総便益} / \text{総費用} = 2.67$$

■今後の対応方針（案）

事業継続